

研究専攻（専門領域）		文化構造研究専攻（アメリカ研究）		学籍番号	05CS023
氏名	立川 朋子	ローマ字	TATSUKAWA Tomoko	国籍 (留学生)	
修士学位 論文名 特定課題研究名	神話の力 20 世紀転換期のアイルランド系アメリカ人のナショナリズム				
提出年月日	2008 年 1 月 8 日		指導教員	有賀 夏紀	
体裁 (論文)	78 頁(1 頁字数 1200 字)		言語	日本語 (英語含む)	
別冊添付資料等					
キーワード	アイルランド アメリカ 文化ナショナリズム 神話				
<p> 本論文では、20 世紀転換期のアメリカのアイルランド系のエスニック・アイデンティティの形成と祖国の独立支援において、神話による文化ナショナリズムの果たした役割を検証する。アイルランドでは神話が多様な独立運動を統一し、ナショナル・アイデンティティの形成を促進したことから、アメリカでも神話が同様の役割を果たしたことが予測される。第一章では、最近のナショナリズムをめぐる論争をとりあげ、神話を重視するアンソニー・D・スミスのナショナリズム論に焦点をあて、ナショナリズムの種類とスミスによる神話の種類を確認する。第二章では、アイルランドの神話による文化ナショナリズムの役割を確認し、三つの文化復興運動で、多様な神話がそれぞれの提唱者により様々な目的のために使われたことを示す。そして第三の復興で「犠牲による再生の神話」が独立運動の指導者たちを団結させ、イースター蜂起駆り立て、その指導者たちの処刑により世論が変わり、アイルランド独立戦争が勃発したことを示す。第三章では、19 世紀半ばまでのアメリカでの神話による文化ナショナリズムの役割を検証し、亡命した青年アイルランドの運動家たちが、アメリカのアイルランド移民に大いに誇りを与えたことを示す。第四章では、20 世紀転換期のアメリカでの神話による文化ナショナリズムの役割を示す。その際、アメリカでのアイルランド独立運動の指導者ジョン・デヴォイを中心とするフィニアン(クラン・ナ・ゲール)と、パトリック・フォード編集のアイルランド系新聞『アイリッシュ・ワールド』紙に焦点をあて、両者が様々な神話を使い、アイルランド系のエスニック・アイデンティティの形成を促し、祖国の独立運動を支援し、移民の擁護を行ったことを示す。終章では、アメリカのアイルランド系のエスニック・アイデンティティの形成における神話の役割と、アイルランドのナショナル・アイデンティティの形成における神話の役割を比較し、それぞれのナショナリズムの特徴について考察する。最後にナショナリズムに起因する問題の鍵としての、神話の力の可能性を示唆する。 </p>					